



石について

宮坂静生

日が永し海鼠の触手からみ合ひ
考へのつなぎに海鼠しばし見っ
ゆりの木の花殻捧ぐ空の奥
廻る春北風鋭ど穂高川
良司征上原良司のふるさときし春のはやて颯の乳房橋
まんまるな石を探すも兜太の忌

鳳たわしりのこゑに弾けて花崗岩

安曇野にごろた石の多し雛飾る
山葵田の二月砂礫のうれし泣き
霜除けの紗を掛けわさび嫁ぐごと
雪代のはじまるとなく鵠こう帰る
文旦のわたに指入れドイツに母子
コロナウイルス靄ひて春の後退る